

明治工芸から現代アートへ

超絶技巧!



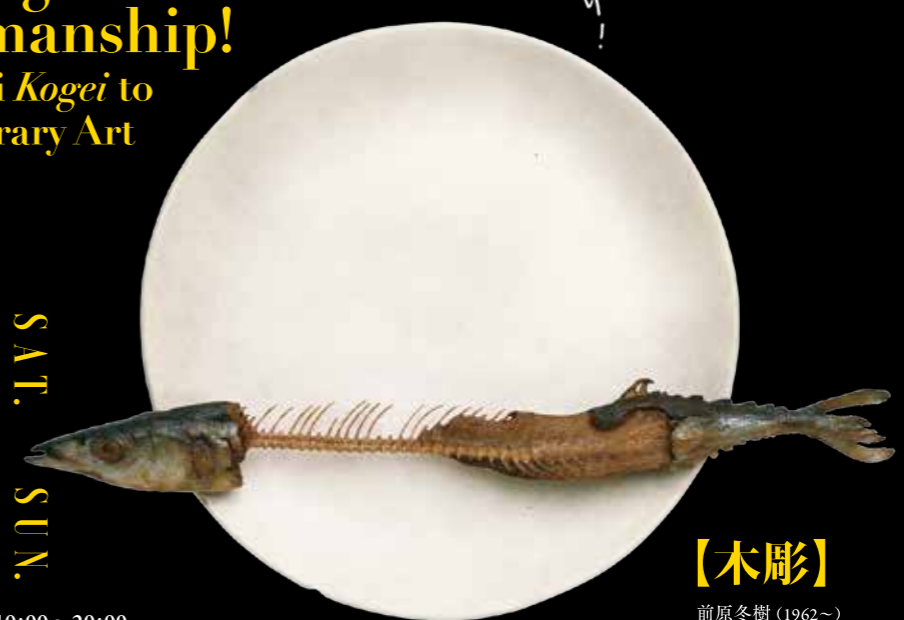
【牙彫】
げ ちよう
安藤緑山 (1885~1959)
《パイナップル、バナナ》
清水三年坂美術館蔵



【七宝】
並河靖之 (1845~1927)
《蝶に花の丸唐草文花瓶》
清水三年坂美術館蔵

Amazing
Craftsmanship!
From Meiji Kogei to
Contemporary Art

2019
1/26 SAT.
4/14 SUN.



【木彫】
前原冬樹 (1962~)
《一刻：皿に秋刀魚》
2014年/桜、油彩

【開館時間】火~金/10:00~20:00、
月土日祝/10:00~18:00 ※入館は閉館30分前まで
【休館日】1月28日、2月18日、3月4日、3月18日の各月曜日
【主催】あべのハルカス美術館、毎日新聞社、MBS
【協力】清水三年坂美術館
【監修】山下裕二(明治学院大学教授)
【企画協力】広瀬麻美(浅野研究所)

あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM

コレクターズ・トーク
明治工芸の美にいち早く注目し、収集と展示に努めてこられた世界的なコレクター、清水三年坂美術館(京都)の村田館長に、超絶技巧の魅力や収集の秘話などを語っていただきます。
2月6日(水) 18:00~19:00
【講師】村田理如氏(清水三年坂美術館 館長)
【会場】展示室
※聴講は無料ですが、本展観覧券が必要となります。

超絶! フォトジェニック・ナイト
閉館後の展示室内で自由に写真撮影ができます。気に入った作品とコラボした超絶フォトで、狙おう、インスタ映え!
2月16日(土)、3月16日(土)
各日 18:00~20:00 【会場】展示室
※本展観覧券が必要となります。
※ストロボ、三脚や自撮り棒などのご使用はご遠慮ください。



【石彫】
佐野藍 (1989~)
《Python xxx》
2017年/大理石

スペシャル・トーク
「日本美術応援団 驚異の超絶技巧を応援する! in 大阪」
本展監修者で「日本美術応援団」団長の山下裕二氏と、団員の山口晃氏(美術家、本展チラシ挿画担当)が、熱き超絶技巧愛を語る! 展覧会が100倍面白くなる対談です。
3月3日(日) 14:00~15:30 (13:30開場)
【出演】山下裕二氏(本展監修者、明治学院大学教授) 山口晃氏(美術家)
【会場】あべのハルカス25階 会議室 (17階からエレベーターにお乗りください)
【定員】270名
【聴講料】1,500円(一般観覧券とオリジナルポストカード付き・税込)
トークチケットは、11月16日(金)~1月25日(金)まで、下記にて販売します。定員に達し次第終了。ポストカードは当日会場にてお渡しします。
【チケット販売所】ローソンチケット(Lコード:53513)



山下裕二氏



山口晃氏

驚異の価格チケット 1枚 500円 税込 【一般のみ】 【販売期間】11月5日(月)~予定枚数終了まで 【チケット販売所】セブンチケット
1月26日(土)から2月28日(木)まで使用できる期間限定スペシャルチケット。先着877枚を上記にて販売します。

観覧料(税込)	当日	前売・団体
一般	1,300円	1,100円
大高生	900円	700円
中小生	500円	300円

※前売券は11月16日(金)~1月25日(金)まで販売。※団体は15名様以上。※障がい者手帳をお持ちの方は、美術館チケットカウンターでご購入されたご本人と付き添いの方1名まで当日料金の半額。※本展観覧券(半券可)の提示で、特別展「フェルメール展」[2019年2月16日(土)~5月12日(日)、大阪市立美術館]の当日券を100円引きでご購入いただけます。(1枚につきお一人様1回限り有効、ほかの割引券と併用不可)
【チケット販売所】あべのハルカス美術館ミュージアムショップ(美術館開館日のみ)、あべのハルカス美術館ホームページ(オンラインチケット)、近鉄駅営業所、セブンチケット、チケットぴあ(Pコード:769-350)、ローソンチケット(Lコード:53513)、イープラス、ファミリーマート、サークルK・サンクス、近畿日本ツーリストグループの店舗(一部店舗を除く)など

ハルカス大学連携講座
「金属に託す瞬間の美 超絶技巧への挑戦」
本展出品作家で、蒲公英や桜などの繊細で儂い自然を金工で表現する、若き超絶技巧の担い手、鈴木祥太さん。制作にかける想いと、技の秘密を語っていただきます。
2月17日(日) 14:00~15:00 【講師】鈴木祥太氏(本展出品作家、金工)
【会場】あべのハルカス23階 セミナールーム(17階からエレベーターにお乗りください)
【定員】40名(事前申込制、先着順)
※聴講は無料ですが、本展観覧券(半券可)が必要となります。
お申し込みは、ハルカス大学 web サイト(<http://harudai.jp/>)、お電話(06-6622-4815)、もしくはハルカス大学受付(あべのハルカス23階キャンパスフロア)にて承ります。定員になり次第締め切ります。

ギャラリー・ツアー
2月20日(水)、3月20日(水)
各日 18:30~(約30分)
【講師】当館学芸員
【会場】展示室
※聴講は無料ですが、本展観覧券が必要となります。

音声ガイド 500円 税込 (約35分)
【ナレーション】
山根基世(アナウンサー)



【漆工】
更谷富造 (1949~)
《遊景》2017年
石漆 平目粉、貝



【交通のご案内】
近鉄「大阪阿部野橋駅」、JR・地下鉄「天王寺駅」、阪堺上町線「天王寺駅前駅」下車すぐ。
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
あべのハルカス美術館へはシャトルエレベーター【乗り口:地下1階または2階】をご利用ください。
あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM
〒545-6016 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
あべのハルカス16階
【お問い合わせ】06-4399-9050

【金工】
鈴木祥太 (1987~)
《綿毛蒲公英》2017年
真鍮 銅 酸化チタン、緑青

明治工芸から現代アートへ

19世紀後半、日本では明治の時代、欧米で開かれた数々の万国博覧会で、日本の工芸品は大きな注目を集めました。自然に対する繊細かつ豊かな感受性と、それを意匠化する洗練された造形センスと超絶的な技巧は世界を驚嘆させ、大量の作品が海外へと輸出されていきました。近年、そうした明治工芸の魅力に再び光を当てる機運が高まっています。さらには、明治元年から150年を経た現代のアーティストの中にも、先人のDNAを受け継ぎつつ、今という時代をもその作品の中に映し出す、新たな「超絶技巧」の担い手が生まれています。

本展では、時代を超えて人間の手が生み出す奇跡のような技のコラボレーションを、約140点の多種多様な技法の作品によって紹介します。驚異に次ぐ驚異の連続に、ご期待ください。

※会期中、一部展示替えを行います

【木彫】

旭玉山 (1843~1923)
《銀杏鳩図文庫》
清水三年坂美術館蔵

美しい木目の白桐材に、数種類の木材や金属、石などをはめ込んで、銀杏の枝にとまる鳩を表す。それぞれの材の色味や質感を生かし、繊細な彫りで気品高い写実性を獲得している。

【七宝】

並河靖之 (1845~1927)
《紫陽花図花瓶》
清水三年坂美術館蔵

薄く細い金属線を器に貼って輪郭線をつくり、釉薬をさして焼き付ける有線七宝で世界をうならせた並河。紫陽花の小さな花弁の絶妙なグラデーションと愛らしい小鳥が、艶やかな黒地に映える。



【自在】

満田晴穂 (1980~)
《自在蛇骨格》
2017年/銅、真鍮、青銅、銀
動物や昆虫などの関節が“自在に”動く金工、「自在」。生きた蛇ではなく、骨格に着目した斬新さ、シャープでメカニクな構造美は、江戸時代から続く自在の進化形といえよう。



【金工】

本郷真也 (1984~)
《暁》 2017年/鉄、赤銅(目)

鉄板を熱して、ひたすら叩く。全身で鉄と向き合う時間の中から、生命の形が立ちあがる。黒光りするガラスの迫力は、作り手のエネルギーと直結している。



【金工】

高橋賢悟 (1982~)
《origin as a human》
2015年/アルミニウム
花冠をつけた頭蓋骨。よくみるとそれ自体も無数の花でできていることに驚く。ナマの花々から型どりし、アルミニウムを流し込んで鑄造する新たな技法を確立した作者。その手で再生された数万個の花々は、生命の歴史に捧げられたものか。



【陶磁】

初代宮川香山(1842~1916)
《猫ニ花細工花瓶》
眞葛ミュージアム蔵
器体に咲き誇る薔薇は、香山が得意とした高浮彫と呼ばれる立体的な装飾技法を駆使したもの。その下にたたく猫の柔らかな毛並みの再現も見事である。舌なめずりする猫の目線の行方は、器の裏側へと続く。

【七宝】



春田幸彦 (1969~)
《有線七宝 錦蛇革鞆置物「反逆」》
2017年/有線七宝、銀、銅

「反逆」というタイトルのゆえんは、蛇革風のバッグの下方からぬっと突き出した蛇の頭。ウイットの効いた現代的風刺を、明治時代から受け継ぐ有線七宝の確かな技術が裏打ちしている。

【牙彫】

どこから見ても、胡瓜。みずみずしく張った表皮、とがったイボ、蔓も葉も花もついたままで、畑から採られたばかりか。これが、人間の手で象牙から彫り出され、彩色されたものとは! 奇跡の牙彫師、安藤緑山の技の粋が堪能できる一品。



安藤緑山 (1885~1959)
《胡瓜》

柴田是真 (1807~1891)
《古墨形印籠》

その名の通り、ひび割れ角の欠けた古い墨を模した印籠。つまりはトリックアートである。古墨特有の乾いた質感を生む塗り、欠損などの克明な彫りは、漆の名手、是真ならではの。



【漆工】

黒塗とみせて漆で造形してある。古びさせろが見事。漆がは本気で



3次元的な配置も見事。活けてある。

【陶磁】

稲崎栄利子 (1972~)
《Arcadia》 2016年/陶土、磁土、ガラス
未知の生命体出現か!?!と思いきや、その正体は「やきもの」。磁器用の土で数ミリの微細なパーツをつくり、土台にひとつずつ貼り付けて焼成する、気の遠くなるような手作業のたまもの。



えー海がシグナル。手造りらしい。てきたんじや。な、のり。体にわるいよ。やめようよ...

へびのウロコ。コブラが有線七宝。持手は銅。ジッパーは銀。

- 参加現代アーティスト (五十音順)
- 青山 悟 [刺繍]
 - 稲崎栄利子 [陶磁]
 - 白井良平 [ガラス]
 - 大竹亮峯 [木彫]
 - 加藤纈山 [木彫]
 - 佐野 藍 [石彫]
 - 更谷富造 [漆工]
 - 鈴木祥太 [金工]
 - 高橋賢悟 [金工]
 - 橋本雅也 [牙彫]
 - 春田幸彦 [七宝]
 - 本郷真也 [金工]
 - 前原冬樹 [木彫]
 - 満田晴穂 [自在]
 - 山口英紀 [水墨]